西南学院大学・図書館報

秋の読書特集

-大学生と読書-

人との出会い、本との出会い

法学部教授 沢野 直紀

人は、両親との出会いに始まり、色々な人々との出会いと交わりによって人間らしく成長してゆく。一般的には、人との出会いが重要であろうが、書物との出会いが人格形成に大きな影響を与えることも事実である。

私の場合、人との出会いが同時に本との出会いを伴うことが多かった。中学時代のA君 は、南総里見八犬伝の類の物語が大好きで、本を読むことが楽しいことであることを身を もって示してくれた。 高校時代に同じ汽車通学で親しくなった T 君は、常に文庫本を持ち 歩き、武者小路実篤の「友情」や内村鑑三等を熱心に勧めてくれた。他に、クラスでは目 立たないが、「罪と罰」を貸してくれたK君、「眠狂四郎」を教え私を夢中にさせた大衆 文学派のS君、高校生としては高級な読書家だったM君などが思い出される。とくにM君 は、カント等の哲学書や、トルストイ、ロマン=ロラン、ゲーテ等の文学作品を次々と読 んでいた。本を体系的、系統的に読むことを示してくれた最初の友人である。私に決定的 な影響を与えたのは、高1の時の社会のK先生である。先生は、自分が読んだ本の内容を つぎつぎと語ってくれたが、それらを人間の知的世界の歴史と体系の中に位置づけて紹介 してくれた。最後に必ず挿入される「岩波文庫星ひとつ40円」というつぶやきが印象に残 っている。「本を読め」と直接には言わないが、何となく本を読む意欲がかき立てられる 授業であった。その後の大学時代は、政治や自分自身の嵐にまき込まれ、十分に本を読ん だとは言えず、本号の特集<大学生と読書>にぴったりする記事が書けないのが残念であ る。読書は、大哲学者、大思想家、大小説家とひとりで直接に対話できる唯一の機会であ り、大学時代に経験して欲しい事である。

読書が人格を向上させるとは断言できないが、人間という高級動物に生まれながら、知性を十分に開発せず、人類の知的遺産を味わうことなく、欲望のままに生きるのは悲しいことではあるまいか。人や本との出会いは待っているだけでは十分でなく、自分から積極的に求めることも重要である。求めよ、さらば与えられん。 (法学部長)

	目	次
和	kの読書特集	図書館への一考察 5
	佐々木直井・米山 茂美	— Gates of Wisdom —
	山本 真也・村田真木子	David M. Cohen
Ħ	世界の図書館4	新図書館開館2年目を迎えて6
	ードイツの大学図書館-	黒木 敬子・西田 充
	松原 宏	一利用状況一

読書は岩波文庫から始まった

今日はいささか羞かしい私の少年時代の事を 話しましょう。そう、それは昭和十九年の春、 つまり太平洋戦争の後半の頃の事なんです。そ の4月、私は憧れの中学の新一年生になりまし た。杉並のK中学でした。家が中野だったため、 省線電車で通学する生活に入ったのですが、そ れまでの紺の半ズボンに運動靴、そして学童帽 にランドセルという学童の格好から一挙に変身、 カーキ色の長ズボンに編み上げ靴、戦闘帽をか ぶりゲートル姿も凛凛しく、ズックの鞄を肩か ら斜めにかけて電車通学する事になったのです。 中学生は学生の卵、そして学生は読書するもの であり、電車のなかでも読書三昧が学生の本分 と信じていた私は、電車にゆられながら分厚い 文学書の頁をめくるつもりでした。残念ながら 通勤電車はすしづめの満員で、とてもじゃない が本を開くことが出来る状態ではありません。 そこで文庫本に切り替えました。

但し学生の読む文庫本は岩波でなくてはなら

文学部教授 佐々木 直 井

ないと信じていたのです。しかし当時岩波文庫 は貴重品でした。何冊も持っている兄は貸して くれません。仕方なく自分の岩波文庫を求める 事にしたのですが、戦時中のこととて本屋にも 本が無い。途方に暮れました。

しかし、有り難いことに天は自覚にもえた少年をいつまでも見捨ててはいなかったんです。

ある日、本屋に行列が出来ていて、なんとその先に入荷したばかりの新本の岩波文庫が積まれているではありませんか。選択の余地無しと

いうわけで奪う様にして早 速求めました。その本の題 は藩翰譜! 満員電車の人 波にもまれながら、やおら ポケットから取り出した新 井白石に熱中したふりして 読む中学1年生。微笑まし い? 気障の塊! ああ、 穴あらば……。



一大学生

疑似体験としての読書

商学部講師 米山 茂美

皆さんは、いつでも、どこでも、だれとでも同じように親しく、意味のある対話ができるだろうか。大学の仲間との間では仲良く、楽しく話せても、(やや極端だが)相手が暴走族のリーダーであったり、東北地方で農家をしているおばさんだとすると、途端に話すことがなくなり、対話も途切れてしまうのではないだろうか。私は、それは彼等との間に「共通の体験」がないために、話題が思い浮かばないからだと思う。

人間の人生は限られているから、いくつもの体験をすることが極めて難しいのはいうまでもない。しかし、書物は、そうした共通の体験を「疑似体験」として提供してくれる。たとえば、佐藤郁哉の『暴走族のエスノグラフィ』(立派な学術書である)を読んだ人間は、きっとその疑似体験の中から対話のヒントをつかみ取り、

彼等との間に有益な関係を築き、彼等の行動の 本質を理解することができるに違いない(そん な関係は築きたくないし、そんな本質は理解し たくないという人間が多いだろうが)。

経営学の観点からいえば、このことは、いわゆるビジネス書などを通じて企業の実態を体験することの重要性を意味している。体験のないところには、関心も、問題意識も、ましてやアイデアも生まれない。そのため、皆さんが企業経営の本質を理解し、経営学を自分のものにしようとするなら、できる限り多くの企業の実態を経験することが望ましい。

私は、つねづね図書館は「体験の宝庫」だと 考えている。われわれはそこでビジネスマンに もなれるし、農夫にもなれるし、暴走族にもな れる。今年の秋、ちょっと商社マンとして原油 の取引でも体験してみてはどうだろうか。

図書館て すばらしい!

経済学部経済学科4年 山本 真也

私は図書館ファンとして、一年次から利用し続けています。その図書館には、新聞、雑誌から、高価な経済専門書まで、あらゆる文献がそろっています。よく言えば合理的、悪く言えばけちな私は、出費なく多くの情報、文献にありつけるわけです。そして不思議なことに、自宅で、新聞を読んだり、勉強したりするより、図書館でそうした方が、能率よく頭に入るように感じられます。これは、私が図書館の雰囲気が好きだからだと思います。広々とした、ほこり

っぽくないスペースは、鼻 炎もちの私に心地良く感じ させます。そしてこれが大 事なんですが、ほかに勉強 している方々の真剣な姿を 見ると、私も頑張ろうとい う気になってきます。

こうやっていろいろ考え てきますと、図書館での勉 強、読書は、高校時代までの受験勉強とは全く 違ったものだと思えてきます。なぜならそれは、 記憶力重視の知識偏重型学習ではなく、何かあ る事柄に絶えず興味と疑問を持って、頭をフル 回転し、そのことを解き明かそうとする「学び、 問う。」という、学問の大事なところではない かと感じるからです。そして、それを私達学生 に実践させ得るに充分な環境を提供してくれる のが図書館だと思います。

以上、大変偉そうなことを書きましたが、私 は楽器を弾く(へたくそですが)趣味を持って いますので、よく音楽に関する本を読みます。

趣味や好きなことについて、造詣を深めたいという欲求を実現してくれるところ、それが図書館であり、先ほどと同じ意味で、「学び、問う。」という学問の大事なところを、日常生活の中でも、実らしてくれる場所だと感じています。

帶鎮

と読書

本を読む楽しみ

文学部国際文化学科3年 村田 真木子

「読書の秋」といいますが、秋は何だか本が 読みたくなります。そういう時、皆さんはどん な方法で読む本を選びますか。雑誌や何かの紹 介、友人のおすすめ、といろいろあるでしょう が、私は自分で選ぶのが一番好きです。選ぶ時 に一番のポイントとなるのは、本の題名です。 本の題名は、その本の顔だし、題名の字の形、 色はその本の雰囲気を私たちに伝えてくれます。 たくさん本が並んでいる中、それぞれの題名を 見比べてみると、はっと魅かれる題名が目につ きます。そうしてその本が私の読む本になりま す。

こういう方法で選ぶと、その本に関する情報が全くないので、何の先入観もなく、素直に読めます。「この本は感動ものだ」とか「この本は恋愛ものだ」というたったこれだけの読む前の認識が、それらの本を、そのままただの「感

動もの」、「恋愛もの」の本にしてしまいます。 題名だけで選ぶのですから、当然あたりはずれ は大きいし、全然つまらないと感じる本もあり ます。でも、その中から、何ともいえない、自 分の好きな本が出てきます。そして、そういっ た本は、何を伝えたいのかはっきりしない場合 が多くて、読み終えた後も不思議な気持ちにな ります。こういう類の本というのは、きっと人 それぞれに違うと思います。だからこそ、自分 で本を探すのが一番いいのではないかと思うの です。

読書の秋とはいっても、本が嫌いな人や、苦手な人にとっては何の関心もないかもしれません。でも、もし少しでも興味がある人なら、ふらっと図書館へでも足を運んでみてはいかがでしょう。そして自分と波長のぴったり合う本でも見つけてみて下さい。



〈在外研究を終えて〉



ドイツの大学図書館

経済学部教授 松原 宏

私の手元に一枚のすりきれた地図がある。私が昨夏より1年余滞在したドイツ北西部の大学街・ミュンスターの市街地図の上に、ミュンスター大学(1773年創設、学生数4万5千)の学部・研究機関・交流施設などの建物が彩色され、番号が付けられたもので、それを眺めていると街のかなりの部分が大学関係の建物で占められていることに気づくのである。

街の中心部を流れる小さな川沿いの緑地帯の一角に中央図書館があり、また各学部・研究機関にそれぞれ図書室があるので、まさに街に図書館が溶け込んでいるといってもよいくらいである。街に埋め込まれすぎて、その地図なしでは、図書室を探すのが難しいこともしばしばである。

私は専ら地理学教室の図書室を利用したが、 工夫された図書の配列と徹底した図書カードの 整備に感心させられた。大学の地域性を重視し た独特の地域区分のもとに、地域別の図書配置 がなされ、著者名、書名の他に、事項別、地域 別カードが作成されていた。学生は、こうした カードをもとに、比較的容易に文献リストを作 ることができ、レポートをまとめることができ るようになっている。他の大学の図書室もいく つか訪ねたが、同様な感想をもった。図書室は、 専任の女性司書を柱に教室の学生スタッフ数名 で管理されており、彼女の見識や個性が図書室 に体現されているといってもよい。本とつきあ う前に、その司書の人といかにうまくつきあう かということが、図書室利用のこつといっても 過言ではない。

経済学部の図書室でも、項目別図書カードが 大いに役だった。ドイツの経済地理学者・レッ シュの生涯に関心を持ち調べたことがあるが、 本人の業績はもちろんのこと、第三者の書評や コメントなどの雑誌記事まで、カード化されて いるという徹底ぶりであった。

中央図書館では、さすがにコンピュータが登場する場面が多くなる。閉架の図書・雑誌を借りるときは少々やっかいで、コンピュータの端末にデータを入力し、待ち時間の表示を見て、貸出の窓口に取りに行くというシステムになっていた。もっとも、図書・雑誌ともに開架のスペースが多くとられており、使い勝手は良かった。やはり、自分で直接書架を見ることができるのは大切で、思いがけない本に出会うこともある。書架の脇には、必ず数台のコピー機が置かれていた。紙のサイズはA4のみで、大版の雑誌などは縮小してコピーすることになる。当初不便に感じたが、その後の整理・収納には統一性が保て、悪くない。

コンピュータによるデータベース化が進む今日では、こうしたドイツの街に溶け込んだ大学図書館は、時代遅れの感がないでもない。しかし、職人的配慮で作られた図書室は、使い勝手が良く、街の景観とともに忘れがたく貴重なもののように思えて仕方がない。



國昌館《四一考察



Gates of Wisdom

ロード・アイランド大学交換留学生

David M. Cohen

You're standing on the steps in front of a massive building that looks like it could house nine football games. Intimidated by its appearance but thirsty for knowledge, you "kick off" your adventure by charging through it's gates. Your adrenaline starts to pump as your eyes start to run. Despite your sudden astonishment, some inner desire takes over, and leads you to your treasure.

It's richer than you've ever imagined. As you turn the pages, you can feel your mind absorbing....knowledge you never dreamed existed. With this knowledge you can build a bridge, fly a plane, save a life, or even travel through time...linking your generation to those in the past. This experience is greater than any wealth imaginable and there are truly no boundaries.

A library could not be fully explored in nine lifetimes, or explained in one essay. Libraries are vital to the advancement of the human race, and without them we couldn't learn from our mistakes. While a book contains the necessary data to correct our mistakes, a library is the overall information we need to improve our corrections. The library is the nucleus of human intelligence and a necessary part of society.

Libraries date back to Mesopotamian and Egyptian civilizations even before there were books, serving as a place for collecting, preserving, and making available. These same three services are employed by every library around the world today, providing a free ticket to anyone seeking a little knowledge and a lot of adventure.

時集新図書館開館 2年目を迎えて!!

別用者の声

私の好きな空間

大学院法学研究科 黒木敬子

私にとって閉架図書室が研究を兼ねたフロアとして大学院生に開放されたことは、本当にありがたいことでした。というのは諸事情から大学院でも家庭でも勉強する場所がなく困っていたからです。だから今では研究室として頻繁に利用させてもらっています。

閉架フロアは清潔で、静かで、ゆったりしていますので、とても心が安らぎます。窓から広々とした景色を眺めていると、疲れた心が少しずつ回復してゆくようです。私にとって閉架フロアは今一番心の落ち着く大好きな空間です。

閉架フロアは、入室の際のチェックだけで、 入室後は自由に何冊でも、何回でも閉架から本 を取り出し利用することができますのでとても 便利です。判例研究の場合など、次々に必要な 文献がでてきますので、そのつど借りだす手間 が省けて助かります。

外国の雑誌も整然と並べられており、利用しやすいです。ただ希望を言えば中国、韓国などアジア圏の雑誌がもっと増えればと思います。

それから色んな国の絵本があれば楽しいし、 初歩の語学の勉強にも役立つと思います。

ある教授の本の中に「図書館を勉強部屋がわりに利用するのではなく、本を読むために利用して欲しい。」という言葉がありました。私もそう思います。勉強する人達の席取りのために、本を読めない人がいるとすれば、とても残念なことだと思います。私は今、論文に忙しく図書館を主に研究のために使用していますが、論文が完成したら読みたい本がたくさんあり楽しみにしています。

音に取り囲まれている日常生活の中で、意識 的に音を消した空間というのはとても貴重なも のだと思います。互いに大切にしましょう。

新図書館2年目を迎えて

法学部法律学科3年 西田 充

新図書館が早くも二周年を迎えます。私が西南学院大学に入学した当時は、まだ新館の建設にも着手していなかったように思われますから、月日の経つのは早いものです。

図書館増築の最も大きな理由は、"学生へのサービス向上"だったのでしょう。その目的の大部分は、図書館全体の雰囲気を全く別のものにしたことで達成できたのではないでしょうか。旧館時代の古びれて何かしら暗いイメージからすると、現在の図書館はそのイメージが完全に一新されました。外観もモダンになり、玄関から入ると2階までの吹き抜けが、開放感を与えます。全体として照明の量を増やしたせいか、明るい雰囲気になりました。

こうした雰囲気の改善によるものか、旧館時代に比べて図書館利用者数がかなり増えたように思われます。これ自体は大変喜ばしいことです。しかし、私が最近特に思うのは、利用している学生のマナーの低下です。外の雰囲気をそのまま図書館に引きずり込み、大声で談笑する者、知人にすれ違う度に大声で感嘆の声をあげる者など特に試験期間中はひどい有り様でした。私自身、何度"大声で"怒鳴りちらしたことでしょう。挙げ句の果てには、館内放送で「騒がしいので静かにしてください」といった放送が流される始末です。何とも情けない大学図書館です。

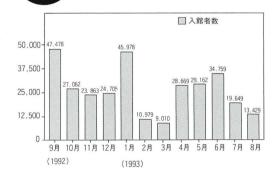
現代は、大人が幼児化し、教育力が低下していると言われています。体が大きく成長した学生も、図書館で多くの書物を読むことで精神的に成長し、真の大人になれたら我が大学図書館を増築したことがもっと意味を成すことになるでしょう。

视用状况

新図書館がオープンして1年が経過しました。以前に比べて明るく、入館しやすくなった1階のエントランスホール、座席数の増加、そして新設されたグループ学習室、AVコーナーなど利用者の利便を考えて設計された図書館です。では、実際に統計から利用状況を見てみましよう。なお、統計の対象期間は、1992年9月~1993年8月です。

その1

入館者数は?



分析

1年間の利用者総数は、314,743人(のべ人数)。1日平均1,187人利用されたことになり、BDS の導入により入館しやすくなったことが考えられる。

___ o _

その2

グループ学習室の 利用状況は?

第 1 グループ学習室 23件 第 2 グループ学習室 23件 第 3 グループ学習室 7件 グループ視聴覚室 23件

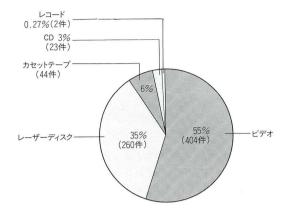
(分析)

新設したこの学習室は今年2月から利用を開始し、9か月が経過。利用件数は76件で、1か月平均9件の利用。

- 0 -

その3

AVコーナーの 利用状況は?



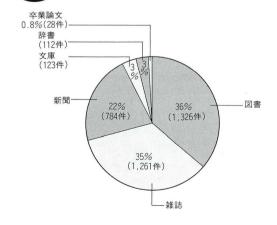
分析

- o ---- o ---- o -

新設したこのコーナーの利用件数は733件で1か月平均約62件。2年目に入り、利用者にもこのコーナーが定着し、増加が見込まれる。

その4

閉架書庫にある資料 の利用状況は?



分析

1年間の利用件数は3,634件で前年度(3,161件)に比べて473件増加。カウンターまわりに検索機能を集中させることで、利用者がより多くの資料を探せるようになったと考えられる。

「意見箱」への声

利用者の皆さんから図書館に寄せられるご意見ご要望は、図書館の運営の参考にさせていただくことにしています。今号はその中のいくつかをご紹介し、ご理解をいただきたいと思います。

☆質問1

19:30以降の3、4階の消灯と、キャレルの開放について

★回答

新館になり、空調設備、照明設備がレベルアップしたことで光熱費が高騰し、旧館時代の10倍程の経費を消費しています。定期試験期を除く時期は、夜間の利用者が少ないため、利用者のご協力があれば、光熱費の膨張を少しでも防ぐことができると考えています。そこで19:30以降は利用者の皆さんに2階に移動していただき、3、4階は階段の上り口と、書架への通路だけを誘導灯として点灯しています。3、4階の図書を利用する場合は、書架灯を各自で点け、利用後に消していただくようにしています。

キャレルは、他を気にせず、学習に集中できるメリットがあり、19:30以降もできるだけ利用できるように配慮しています。

☆質問2

1、3階以外にも複写機を設置してほしい。コイン式も設置してほしい。

★回答

複写機の台数は、皆さんが1年間に利用する 平均的な複写枚数で決めています。2、4階に も設置すれば、便利であることは熟知していま す。しかし、本学程度の規模で、かつ図書館資 料だけを複写するという原則を守っていただく ならば、各階に設置するほどではありません。 他の階からの利用については、皆さんのご協力 をいただくより方法はありません。

コイン式については、つり銭の補充や、両替機への小額コインの補充など、管理面が繁雑であり、かつこうしたことのトラブルが頻繁に生じた経験からカード式に変更しました。少数枚数の複写にカードはむだという意見もありますが、保存、譲渡ができますし、便利性はコイン以上であると考えています。

報 告

≪研修・出張≫

- EDC セミナー
 - 5月27~28日 上智大学 古庄司書
- · 私立大学図書館協会春季西地区部会 6月18日 名古屋商科大学

若松次長、篠﨑課長

- ・私立大学図書館協会総大会・研究会 7月28~30日 関西大学 若松次長、篠崎課長
- ・文化庁著作権セミナー
 - 9月2~3日 宮崎市 江原司書補
- · 私立大学図書館協会西地区部会九州地区研究 会

9月3日 九州共立大学 田代課長補佐、森下係長、川口、 棚町司書補

・事務システム研修会

9月13~15日 熱海 篠﨑課長、佐藤係長

· 私立大学図書館協会秋季西地区部会

10月15日 丸亀 四国学院大学

森下係長、山方司書

《人事異動》

7月1日付

図書館長 門田見昌明 再任

宗教部 薫 図書館整理課に配転

事務室外無凶責照登理試

整理課 吉村加代子 庶務課に配転

9月15日付

情報サービ 倉光 惠 休職ス課係長

編集後記

「過ぎゆく時を惜しめ。時の流れを活用せよ。人生は短き春にして、人は花なり(サミュエル・ジョンソン)| 多感な大学生時代に読む書は、人生の宝物。(J)

西南学院大学図書館報編集 館報編集委員会

No. 1 3 5 1993 (平成 5) 年11月19日 発行

発行 西南学院大学図書館 〒814 福岡市早良区西新 6 丁目 2 番92号 TEL (092) 841 - 1311 (代)